

平成30年度第1回千葉市史編さん会議議事録

1 日 時：平成30年10月19日（金） 午後1時30分～3時00分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 講座室

3 出席者：（委員）

吉田会長、本郷副会長、天野委員、今井委員、加納委員
（千葉市史編集委員会代表）

池田委員長

（事務局）

稲葉文化財課長、朝生郷土博物館長、芦田副館長、高橋主査、
土屋主任主事、白井（囑託）、大関（囑託）、笹川（囑託）

4 議 題

(1) 『千葉市史 史料編 近現代』の進捗状況について

(2) 平成30年度事業中間報告について

(3) その他

5 議事の概要

(1) 『千葉市史 史料編 近現代』の進捗状況について

『千葉市史 史料編 近現代』の進捗状況について、構成案、史料選定の状況、
工程スケジュールなどを説明し、編集の方法などについて確認した。

(2) 平成30年度事業中間報告について

平成30年度事業の中間報告について説明し、事業の進捗について確認した。

(3) その他

『千葉市史 史料編 近現代』刊行後の見通しなどについて意見が出された。

6 会議経過

午後1時30分、委員5人中5人着席。

司会（高橋主査）より、千葉市史編さん会議設置条例第5条第2項の規定により、
会議が成立する旨が告げられ開会。その後、資料の確認、事務局新職員の紹介、
稲葉文化財課長、吉田会長の挨拶に続き、千葉市史編さん会議設置条例第5条第1項の
規定により会長が議長となり議事に入った。

議題1 『千葉市史 史料編 近現代』の進捗状況について

『千葉市史 史料編 近現代』の進捗状況について、構成案、史料選定の状況、
工程スケジュールなどを芦田副館長が説明。

<質疑応答>

吉田会長：編集委員会の池田委員長から何か補足などあればお願いしたい。

池田委員長：9月下旬に近現代史部会を開催した。部会では、説明があったように
構成案の見直しを行った。編集委員による史料選定が進むにつれ、当初作成した
構成案では不都合があるのではという意見が多く出された。

特に、第1編（明治前期）・第2編（明治中後期）の区分をすとかえって史料の選定がしづらいため、構成案自体を再検討する必要があるという意見が出た。また、章節のタイトル名も、選定史料の内容に沿って見直していくことになった。

選定史料リストについては、章節によってはある程度絞り込みがされている一方で、必ずしも十分に絞り込みがなされていない章節もある。これについては、筆耕作業も関わってくるため、担当の編集委員に史料の絞り込みを依頼している。

また、部会とは別にワーキンググループを立ち上げ、そこで具体的な作業を詰めて行く。ワーキンググループは4人で構成し、構成案やタイトル名の見直しについて検討していく。さらに、メンバーは、全ての選定史料に目を通し、章節のバランス調整など具体的な作業を進めていく方向である。

吉田会長：選定史料は、翻刻に回す史料という位置付けか。

池田委員長：ある程度絞られた章節の史料は翻刻に回すことになるが、あまり絞り込みがされていない章節については、もう少し史料を絞り込んでから翻刻に回す予定である。

また、作業を進める中での選定史料の追加もあり得る。

吉田会長：担当の編集委員が史料を細かく読んだうえで、掲載する候補として挙げてきたということによいか。

池田委員長：そうである。

吉田会長：選定史料リストを見ると、例えば学校教育の章節は1つの史料群が大半を占めているように、特定の史料群に限定して選定している章節もあれば、いろいろな史料群から選定している章節もある。後者の場合は、担当の編集委員の中である程度ストーリーがあって、それに沿って選定していると推測される。そうした場合、それぞれの史料群がどういう史料なのか見えてこない。個々の史料群についての解題のようなものが巻末などに掲載される予定なのか。

池田委員長：具体的には詰めていないが、史料群についての説明は巻末に掲載する必要があるという点は近現代史部会で合意している。

また、学校教育の章節については、『千葉市教育史』や『千葉県教育百年史』など既刊行物で今まで紹介されていなかった史料に焦点を絞って選定することになった。必ずしも教育史を系統的に説明するようなものではなく、何かこれまでの既存のものとは違った視点で史料を選定しているところである。

吉田会長：学校教育や「野と水の近代」の章節は、史料群全体から機能的に項目を立てて編集する方法という感じはするが、一方であちこちから史料を集めている章節もあり、異質な気がする。2つの編集方法があることについて、編集方針として明記して進めている形になるか。

池田委員長：担当の編集委員によって選定方法が違っているところがある。各編集委員は、千葉市史編さん事業で収集した史料について、担当分野に沿って一通り目を通し、その中から千葉市域に特徴的な史料、興味深く史料的価値があるのではないかと史料を、いろいろな史料群から選定している。

吉田会長：今井委員から何かあればお願いしたい。

今井委員：1次選定の史料を見ると、非常にばらつきがあるという感じがする。最終的にどのように絞られるのかという問題もあるが、例えば「野と水の近代」であれば、いくつかの野から取り上げていく形は、明治22年の町村制施行以降の各町村単位で見えないと偏りがありすぎるように思う。

千葉市全域で均等に史料があるとは思っていないが、町村制の章節でも、いくつか

取り上げられている町村はあるようだが、圧倒的に千葉町が史料不足になると思う。ちょっと単発に選定している感じを受ける。どういう史料群からどの史料を選定したのかわかるような工夫が必要である。史料群の説明は巻末に掲載するとのことだが、索引は付けるのか。

池田委員長：索引まではまだ決まっていない。

吉田会長：索引というのは具体的には何の索引か。

今井委員：人名や地名もあるが、内容的なもので索引ができるかと思う。どこの旧町村からどういう史料が選定されたのかということがわかるといいのではないか。

吉田会長：あちこちに史料が掲載されても、1つの村の史料群からどういった史料が掲載されたのかわかるようにということか。

池田委員長：町や村ごとに、どういった史料が選定されたのかわかる一覧ということか。

今井委員：それは索引(収録文書目録)の作り方でカバーすることができるかと思ったが。

池田委員長：その辺りはワーキンググループで少し詰めた議論をしようと思う。

本郷副会長：索引まで作って刊行するのはかなり大変ではないか。全部刊行してから索引を別に出すという方針もある。

また、第1巻が3巻全部をある程度規定するものになると思う。大枠でもよいので、3巻通じての編集方針を出しておく必要がある。史料の選定方法や時期区分などは、第2巻や第3巻にも関わってくると思う。第1巻だけでなく、全体を通しての方針を議論する機会があるかと思う。

池田委員長：いろいろな史料を隈なくバランス良く選定する形ではなく、章節によっては、多少偏りがあっても千葉市域の特徴が出てくる史料を集中的に選定してもよいと考えている。もう少し特徴が出るような章節があってもいいと思う。

本郷副会長：最初にそうしたことをはっきりと打ち出すとよいのではないか。

天野委員：各章節のタイトル名の再検討が謳われており、例えば「野と水の近代」などは魅力的なタイトルである。こうしたタイトル名はストーリー性のようなものを想定し、3巻通じた構成を考えたいので付けていくのがよいのではと思う。史料を章節ごとに選定する方がいいのか、3巻全体のストーリー性のようなものをある程度考慮して、千葉市の中の近現代という流れを考慮しながら史料を選定していくのか、その構成によってタイトル名は変わってくるのではないかと思う。また、『史料編近世』との整合性も必要になってくると思う。

池田委員長：いま意見があった点については、近現代史部会でも意識していたことである。選定史料に沿った、もう少し魅力的なタイトル名を付けたいと考えている。

吉田会長：『史料編近世』は、基本的に千葉市域を支配別のブロックに分別し、その中で村ごとに編集方針を立てた。あくまで基本は「地域」である。例えばある区有文書の史料は明治前期でも、明治中後期でも選定されている。この方針だとあちこちに史料が掲載されることになる。もちろん第2巻や第3巻にも掲載される可能性があって、この村落が近代にどうなったのかを見るときにわかりづらい。先ほどの指摘は、これを解消するにはどうしたらよいかということではないか。

池田委員長：町村別にどういう史料が選定され、どういった特徴があるのかということを紹介に織り込む形で進めることを検討したい。そうすれば、近世との繋がりも捉えることができるのではないかと考えている。

吉田会長：テーマや項目から組み立てるのか、地域から組み立てるのかという問題である。地域のから組み立てる場合、近世であれば支配別で区分したという形だが、近現代の

千葉市ではどういう区分ができるか。合併以前の旧町村の場合、旧町村別で区分する編集の方法もあり得るのではないかと思う。

池田委員長：町村制施行以降も旧町村との関係を示すような史料を選定してあったと思う。

吉田会長：他に何かあるか。無ければ議題2に移る。

議題2 平成30年度事業中間報告について

平成30年度事業の中間報告について、5つの項目に分けて、芦田副館長が説明。

<質疑応答>

吉田会長：史料調査・収集・整理事業について何かご質問・ご意見があればお願いしたい。

市外関係機関の史料調査は、基本的に『史料編近現代』の補充調査ということか。

事務局（土屋）：そうである。

事務局（芦田）：史料の確認で史料所蔵者を訪問した際に、未整理の史料が出てきた事例もある。『史料編近現代』の補充調査であっても、近世の史料が出てくることもある。

池田委員長：町村制施行以降の幕張町について、実籾区の区費や区会議事録などの史料の情報は担当の編集委員に伝えてあるのか。有用な史料だと思われる。

事務局（土屋）：担当の編集委員には関係史料の情報を既に伝えている。

池田委員長：幕張町における実籾区の動向が明らかになると思う。

吉田会長：刊行事業についてはどうか。『千葉いまむかし』はまた合冊なのか。

事務局（朝生）：合冊ではなく単独で刊行する予定である。

吉田会長：ニューズレター「ちば市史編さん便り」についてはどうか。例えば委員に交代で記事を書いていただくようにしたらどうか。さらに、普及事業についてはどうか。

千葉市史研究講座の応募者は、前回より少なかったようであるが。

事務局（土屋）：前回よりは少なかった。

吉田会長：講座参加者のアンケート集計は、次回の会議で見ることができるのか。

事務局（土屋）：次回の会議に提示する。

吉田会長：市史研究事業について、具体的な内容が挙がっていないので、きちんと決めておいた方がいいのではないかと思う。では、議題3に移る。

議題3 その他

<質疑応答>

吉田会長：何かご質問・ご意見があればお願いしたい。

天野委員：『史料編近現代』第3巻刊行後の見直しについて、青写真的なものはあるのか。

事務局（芦田）：検討まで至っていないが、通史編も年数が相当経過し、内容も今日的ではない。史料の蓄積もあるので、何らかの形で市民に還元していくようにする必要があると感じている。

天野委員：東京都内のある区では、一般向けの区史を出していて内容も良い。千葉市民もそういった書籍が欲しいと思っている。通史編の準備段階ではないけれど、一般向けの書籍を検討する必要があるのではないか。

事務局（朝生）：市史編さん事業は、先人の方々のご尽力により、博物館で大切に進めて

きた事業である。通史全般を取り扱う意味で、今後も継承して進めていく。その中で、一般向けにもわかりやすい書籍を刊行しつつ、さらに歴史研究者にも対応できるようにしていかなければならないと考えている。

吉田会長：千葉市は東京の大都市に隣接する自治体で、かなり都市化が進んでいる一方で、周辺部分は奇跡といってもいい程、江戸時代以来の美しい景観が幾つか残っている。景観の美しさを大事にしている地域の方々の思いを改めて感じると、千葉市にとっても大切な歴史の「遺産」だと強く思う。ある意味開発から残された地域にこそ、逆に大事なものが残っている。そういった部分をもっと見直すようなことが、自治体には強く求められているのではないかと思う。

市史編さん事業は細々であるが、過去の積み重ねを基盤に、活動できる範囲は多くあると思う。そういったことを手厚く力をいれてほしいと改めて強く思う。

天野委員：例えば自然に関係するものとしては自然散策マップなどが出ている。しかし、散策マップが扱う自然の中には、「里山」のように人の手が入り、そこに歴史が積み重なって現在の景観が出来あがっている視点はない。そうした視点で地域をまとめていければ、地域を大事にする、地域への想いというものが育つのではないかと思う。学校では、これからそうした地域性を大事にしながら学んでいくことが重要だと強く感じているところであるが、なかなか適切なガイドマップがないと感じている。

事務局（朝生）：地域社会であるとか、コミュニティなど旧来からのものをもっと大切に扱っていくことも必要である。有機的に結び付けていくとことが本来は効果的であるとは思う。

天野委員：手がついた頃には開発されて無くなってしまふことが懸念されることだと思う。

吉田会長：東京都のある区では、かろうじて小学校に旧村の名前が残っている状態である。

旧村の古文書もほとんど無くなっている。それに比べたら千葉市は地域の歴史が豊富である。そうした豊かさを見直すようなスタンスを大事にすべきではないかと思う。

加納委員：歴史というのは財産や資産であって、千葉市の特異性や独自性になっていく。

里山の説明やガイドブックに歴史の裏話などが入っていると、深みが出てくるのではないかと思う。例えば『史料編近現代』の編集作業を文章化して掲載するなどの協力はできると思う。

本郷副会長：『千葉市史』はどうやって編さんするのかを少しずつ追って行くのも面白いのではと思う。刊行物を見るが、刊行までの過程はなかなか一般には伝わらない。

加納委員：千葉市の歴史を知ってもらおうと、もっと郷土愛が育まれるだろうと思う。歴史を知らないまま千葉市に住んでいる人々もたくさんいるのではないかと思う。

天野委員：公民館の歴史講座では、地元の歴史を学んだら、こんなに深い歴史があることに気づき、歴史を勉強することが楽しくなってきた受講者がたくさんいる。

加納委員：自分の住んでいる地域の歴史をちょっと見るだけで、すごく愛着が湧いてくる。

吉田会長：他に何かあるか。特に何もなければ以上をもって議事を終了する。

高橋主査の進行により、平成30年度第1回千葉市史編さん会議を終了する。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館市史編さん担当
TEL 043-222-8231